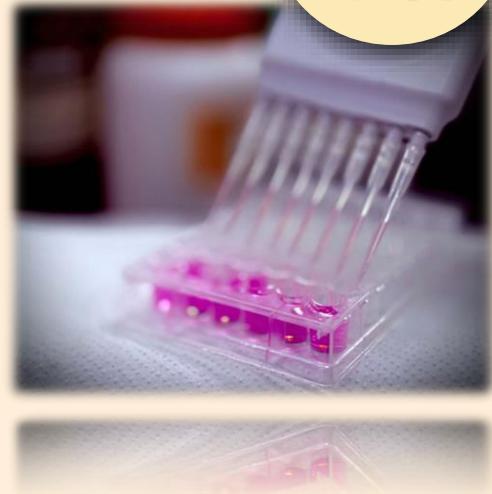


# 第22回 熊本県保健環境科学研究所 研究発表会

参加  
無料

熊本県保健環境科学研究所では、県民の安心安全な生活を守るために、病原体や食品中の化学物質の検査や解析、大気汚染や水質汚濁の調査や研究を行っています。

若手研究員が、私たちの健康や安全を脅かす目には見えない脅威を解明すべく取り組んでいる調査研究について発表します。



皆様の御参加をお待ちしております。

日時：令和8年2月26日（木）13:30～17:00

場所：熊本県保健環境科学研究所 2階講堂

内容：研究発表5題（詳細は裏面をご覧ください）

## 参加申込方法①

下のQRコードまたはURLから、所属・会社名、氏名、メールアドレスを入力し送信してください。



URL (インターネット)  
<https://logoform.jp/f/tbR2g>



URL (LGWAN) ※行政関係者  
<https://tb.logoform.st-japan.asp.lgwan.jp/f/tbR2g>

QRコード (インターネット)

## 参加申込方法②

所属・会社名、氏名、連絡先（メールアドレスや電話等）を明記し、送信してください。

E-mail:hokanken@pref.kumamoto.lg.jp

FAX:0964-23-5260

※①②とも2/18〆切

## アクセス



住所：熊本県宇土市栗崎町1240-1

### 交通案内

電車・タクシー

JR宇土駅下車 タクシーで10分

車

松橋インターフェースより車で15分

【問い合わせ】熊本県保健環境科学研究所 総務課

TEL: 0964-23-5771 E-mail:hokanken@pref.kumamoto.lg.jp

# 第22回 熊本県保健環境科学研究所研究発表会 要旨（概要）

## 熊本県内におけるSFTSウイルス浸潤状況調査

微生物科学部 笠 純華

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)はダニ媒介性の新興感染症であり、近年全国的に急速な感染者数の増加がみられる。本県内でも県南・天草地域を中心に毎年感染者が発生しているが、県内におけるSFTSウイルスの分布は不明である。そこで、県内の動物の感染状況およびマダニのウイルス保有状況を地域ごとに調査したので、結果を報告する。

## 魚介類中のメチル水銀分析法の検討

生活化学部 島 絵里子

本県では、総水銀検査で暫定的規制値に定められる総水銀濃度(0.4 ppm)を超過した場合、当所でメチル水銀検査を実施する体制を整えている。しかし、超過事例がなく検査機会がないため、技術継承と検査体制の維持が課題となっている。こうした背景から、検査体制の確保に向けて当所で適用可能な分析方法を検討したので報告する。

## 熊本県内に流通する加工食品に含まれるアレルゲン「くるみ」の実態調査

生活化学部 門田 健太郎

本県では、県内に流通する食品についてアレルゲン検査を実施している。アレルゲン検査では、スクリーニング検査と確認検査を適宜実施することが定められているが、当所は確認検査の体制が未整備であった。そこで、①全国の地方衛生研究所へアレルゲン検査に関するアンケート調査、②特定原材料「くるみ」を対象に、県内に流通する加工食品に対して確認検査を実施したので、結果について報告する。

## 野焼きと交通に着目したPM2.5濃度の変動要因の解析

大気科学部 三井 浩揮

PM2.5は引き続き重点的な監視が求められる大気汚染物質である。本物質の地域発生源の代表例として野焼きや道路交通が挙げられる。これらの発生源は短時間で高濃度事象を引き起こすことがあり、その挙動や特徴の把握は、効果的な削減対策の検討や常時監視データの精度管理の観点から重要である。本研究では、常時監視項目等の連続観測データを用いて、野焼きおよび道路交通がPM2.5濃度変動に及ぼす影響について解析を行った。

## 熊本県白川流域における河川水中の重金属の検出状況

水質科学部 芹川 大成

本県を代表する河川である白川は阿蘇地方を源流とし熊本市街地を流れ有明海に流入し、中流域では農作用水や地下水保全のため涵養事業にも利用される等、県民にとって重要な河川の一つである。白川流域の水質は水質汚濁防止法に基づき環境基準点等で常時監視されているが、本研究では白川上流から下流にかけて独自に調査地点を設定し、重金属の検出状況等について調査した。

※当日は、12時から所内にてポスター展示も行い研究員が内容を解説する予定です。

※内容等は変更になる場合がございます。